



高2 保健体育科「命の尊さ・家族愛」



高等部2年生の保健体育科の授業では、「命の尊さ・家族愛」をテーマに、学習をおこなっています。

「嫌なことがあったとき、消えてしまいたいと思ったことがある人」という質問や、「けんかをして、家族が嫌になったことがある人」という質問に対して何人かが手を挙げ、高校生の年代ならではの悩みも感じている2年生の生徒たちです。

9月9日には「皆が赤ちゃんだったころ、お父さんやお母さんがどんな気持ちで育ててくれたらろう？」と、お母さんやお父さんの大変さや喜びについて、3つの体験を通して学習をしました。



①妊婦体験

お腹に赤ちゃんがいる妊婦さんのように、約3kgの重さをお腹に抱えながら生活することの大変さを体験しました。初めは「思ったよりは軽い」という感想もありましたが、座ったり、立ったり、靴下を履き替えたりすることを想像してみると、「ずーっとこんなに重かったら大変。」や「手が届かなくなっちゃう。」と感想を述べていました。



②絵本「お父さんがお父さんになった日」



お父さんは赤ちゃんを産むことができないけど、生まれたときはどんな気持ちだろう。と絵本を読んでお父さんの気持ちを考えました。

「お父さんも嬉しそう」「がんばろうって元気が湧いてきたみたい」とお父さんの気持ちも想像していろいろな意見ができました。

③赤ちゃん人形抱っこ体験



「生まれたばかりの赤ちゃんはまだ首が座ってないんだ。」「痛くならないようにしっかり首をしっかり支えてあげなきゃ。」「腕も居なくならないようにね。」と赤ちゃんが安心できるような仕方を考えて、抱っこをすることができました。「赤ちゃんと遊んでみたい。」「絵本を読んであげたい。」と赤ちゃんに触れ合う喜びを感じている様子がたくさん見られました。

